

商店街彩る ひな祭り



市民が持ち寄られたひな人形を軒先や店内に飾る「関のまごろくひなまつり」が、本町商店街で開かれました。展示は「商店街を活性化させよう」と、商店街女性関係者でつくる‘おかみさん会’が毎年実

施しています。色鮮やかな7段飾りを始め、合計400体以上の人形が飾られました。地元安桜小学校の児童たちは、足をとめて店舗に並べられている華やかなおひなさまを眺めていました。

あんな事、こんな事

関市イメージキャラクター
「関*はもみん」



地域連携で教員の資質向上へ

関市教育委員会と岐阜聖徳学園大学(岐阜市)は、教員を目指す学生の育成と現任教員の資質向上に連携して取り組む協定を結びました。この協定は、中部学院大学などに次いで3件目となります。教育実習やインターンシップ(就業体験)で市内小中学校へ積極的に学生を受け入れることや、大学講師を派遣して授業を行うことなどを計画しています。地域の連携と支援により、質の高い教員を育てていきます。

福は～うち

2月3日の節分の日、新長谷寺(吉田観音)で恒例の節分会がありました。今年厄年にあたる人など約800人が順次本堂で祈とうを受け、自分の歳の数だけお菓子などをまいて無病息災を祈願しました。境内では多くの人待ち構えていて、「福は～うち」の掛け声とともに飛んでくるお菓子をつかもうと、たくさん手が伸びていました。





家庭で一流シェフの味

一流シェフの料理を男性が家庭でも作れるようにと倉知地区の男性が集まり、「ふれあい料理教室」が向山公民センターと倉知ふれあいセンターで開催されました。地元で喫茶店を経営する岩井憲司さんを講師に迎え、オムライスとサラダ、イカの塩辛を作りました。始めは要領がつかめなかった参加者も、次第に慣れてきて、包丁やフライパンを上手にを使って、おいしい料理を完成させていました。

「はもみん」に教えてもらったよ

刃物まつりや関市の観光について学ぼうと、旭ヶ丘小学校3年生が「関*はもみん」と一緒にクイズなどを通して楽しみました。始めに市職員が祭りの様子や歴史、市の特産品などを紹介。続いて「はもみんの刃物まつりクイズコーナー」を開催。児童らは、祭りにまつわる3択クイズの正解に一喜一憂したり、クイズ後にメモを取るなど、熱心に学習しました。



世界各国の人と交流を深めよう

富岡小学校で、さまざまな国の出身者から、その国の生活や文化などを学ぶことを通して国の理解を深める「国際交流会」がありました。市内外に住む9カ国11人の講師が、それぞれの国の気候や言語、国旗に込められた意味などを紹介。また、お菓子の試食や楽器・民族衣装の披露など、児童らは実際に現物にもふれて、日本の生活と比較していました。

パソコン検定2級の快挙

桜ヶ丘中学校3年の石原慎也君(写真左)が、パソコン操作技術を判定する検定で、全国の中学生で数人しかいない2級に合格しました。基本ソフトの設定やエクセルとワードを駆使した報告書の作成などを的確にこなし、見事に難関を突破しました。同校パソコン部では、学校行事はもとより、市内へ取材に出かけてホームページ作成に取り組むなどの経験で、準2級、3級合格者も多数輩出しています。



こぼれ話



長寿をお祝いする市長の「100歳訪問」に毎回同行しています。今年度、100歳になられた7人の女性にお会いしました。少し言い方が悪いですが、100歳まで生きられるくらいですから、皆さん元気でいらっしゃいます。長寿の秘訣を聞くと、共通して「何でも食べること、くよくよしないこと」と言われます。私もお祝いの写真を撮りながら、いつも見習いたいと思っています。ご家族に話を伺うと「親が健康でありたい」と言われます。確かに、家族の誰かが病気だと、自分がどんな

に楽しいことをしていても気になりますし、どんなにおいしいものを食べても味気ないものになってしまいます。自分ももとより「家族の健康」に勝る幸せはないと思います。“家族の健康を願う思い”こそが、市民の皆さんがいつまでも住み続けたいと思えるような「快適で安心できる生活」の根源ではないかと思えます。市が目指す「健康・医療に関わる質の高いサービス」の提供はここにあります。そんな中、家族の介護など、日ごろ悩みをお持ちの人が多くいらっやと思います。市の相談窓口もたくさんありますので、ぜひご利用ください。